

## 株式会社クレディセゾン(8253) 2014年度4-6月期決算発表

クレジットサービス事業好調・ファイナンス事業拡大により  
営業収益 628 億円(前期比 1.1%増)・四半期純利益 106 億円(同 30.6%増)

『クレジットサービス事業』では、顧客基盤の拡充として 60 万枚の新規カードを獲得し、稼働会員が 15 万人増加しました。ショッピングでは、消費税増税前の駆け込み需要による反動が一部でみられましたが、通信・旅行等のサービス分野や生活必需品を扱うスーパー・ショッピングセンター等でのカード利用が堅調に増加。取扱高は前期比 6.8%増え 9,755 億円となりました。また、提携小売店舗と連携したカード利用活性キャンペーンにより、ボーナス払いやリボルビング払いのご利用が促進されました。キャッシングでは、利用者数と利用単価がともに増え、取扱高は 736 億円、前期比 6.3%増加し、貸金業法改定で影響のあった残高も今年 2 月末より着実に増加に転じております。これらの結果、営業収益は前期比 1.6%増加し 475 億円、営業利益は前期比 3.8%増加し 48 億円となりました。

『リース事業』では、OA 機器や通信機器等の主力提携販売店を通じた取扱いが堅調に推移し、中小企業や個人事業主への販売が好調に増加した結果、営業収益は前期比 1.1%増加しました。

『ファイナンス事業』では、全国 369 先の地域金融機関と提携する信用保証事業において、保証残高は前期末より 2.1%増加し 2,348 億円、営業収益は二桁伸長し、前期比 16.3%増加の 35 億円となりました。一方、長期固定金利住宅ローン「フラット 35」は、消費税増税の影響によりマーケット全体の取扱いが減少する中、シェアを着実に伸ばしました。また、「セゾンの資産形成ローン」では、有力な提携先との業務連携により、前期に続き、投資用マンションへの購入ニーズを取り込み、取扱高・残高ともに大幅に増加した結果、ファイナンス事業全体での営業収益は前期比 11.7%増加し 51 億円となり、順調にノンバンクとして事業基盤を拡大しております。

海外事業では、事業領域の拡大を目指し、成長著しい ASEAN における事業展開の加速に向け、4 月にインドネシアのジャカルタ市に駐在員事務所を開設、5 月にシンガポールに現地法人を設立しました。

今後の成長基盤づくりに向けた先行投資をする一方で、適正な与信と健全なリスクマネジメントにより、貸倒関連費用は前期比 5.4%減少しました。これらの結果、営業収益 628 億円(前期比 1.1%増)、経常利益 140 億円(同 6.5%増)、四半期純利益 106 億円(同 30.6%増)の増収増益となりました。

当連結会計年度のセグメント別業績概況は次の通りです。

### 1. 営業概況

#### (1) クレジットサービス事業

顧客基盤の拡大に向けた新規会員の獲得とカードの利用活性に取り組み、クレジットサービス事業の営業収益は 475 億円(前期比 1.6%増)、営業利益は 48 億円(同 3.8%増)

- ① ショッピングは、提携小売業と連携した利用活性プロモーションや公共料金や通信料金等、継続利用のあるカード決済化の推進により、稼働会員が前期末より 15 万人増加(1,435 万人)し、取扱高 9,755 億円(前期比 6.8%増)、リボルビング残高 2,751 億円(前期末比 2.7%増)と堅調に推移
- ② キャッシングは、利用者数と利用単価の増加により、取扱高 736 億円(前期比 6.3%増)、残高 2,455 億円(前期末比 0.2%増)と着実に回復
- ③ 高稼働・高単価が見込まれるプレミアムカードや提携小売業との提携カードを中心に 60 万枚の新規カードを獲得
- ④ ポイントサイト「永久不滅.com」の利便性向上を図り、ネット会員は前期末より 32 万人増え、1,028 万人に増強
- ⑤ 貸倒関連費用が 43 億円(前期比 5.4%減)に減少

(2)リース事業

**営業力の強化により、営業収益は 35 億円(前期比 1.1%増)、営業利益は 17 億円(同 17.0 %増)**

- ① 販売店の特性に応じたきめ細やかな営業や OA 機器や通信機器に加え厨房機器など取扱商材の拡充により、債権残高が 2,704 億円(前期比 3.9%増)と過去最高を更新

(3)ファイナンス事業

**提携先との連携強化と商品の多様化により、営業収益は 51 億円(前期比 11.7%増)、営業利益は 28 億円(同 23.8%増)**

- ① 信用保証事業は、提携金融機関と営業・管理両面にわたり密接な連携を行った結果、保証残高が 2,348 億円(前期末比 2.1%増)と順調に推移
- ② 長期固定金利住宅ローン「フラット 35」は、取扱いシェアを伸長した結果、貸出残高(住宅金融支援機構への債権譲渡済み残高)が 2,280 億円(前期末比 4.3%増)に拡大
- ③ 2013 年 1 月より販売を開始した「セゾンの資産形成ローン」は、有力な提携先との連携強化により、実行金額 83 億円(前期比 47.1%増)、貸出残高は 400 億円(同 299.2%増)と大幅に拡大

(4)不動産関連事業

連結子会社(株)アトリウムにおいては、不動産市況の回復や積極的な営業活動により、順調に推移しております。また、整理事業における開発案件の早期資産圧縮にも取り組んでおります。

2. 経常利益・純利益概況

将来の成長に向けた先行投資をする一方で、貸倒関連費用が 43 億円(同 5.4%減)に減少したことに加え、資金調達環境の改善による金融費用が減少するなどした結果、**営業収益 628 億円(同 1.1%増)、経常利益 140 億円(同 6.5%増)となりました。以上の結果、四半期純利益は 106 億円(同 30.6%増)の増収増益**となりました。

なお、2014 年度通期の業績予想につきましては、5 月 14 日に公表しましたとおり、営業収益 2,530 億円、経常利益 400 億円、当期純利益 230 億円と変更はございません。

以上

(ご参考)クレディセゾン単体の業績

(1)新規カード開拓枚数	:	77 万枚	(前年同期比 15%減)
(2)新規カード発行枚数	:	60 万枚	(前年同期比 8.8%減)
(3)カード総会員数	:	2,477 万人	(前期末からの純増数 2 万人)
(4)稼働会員数	:	1,435 万人	(前期末からの純増数 15 万人)
(5)稼働率	:	58.0%	(前期末から 0.6%増)
(6)カードショッピング取扱高	:	9,755 億円	(前年同期比 6.8%増)
(7)カードショッピングリボ残高	:	2,751 億円	(前期末比 2.7%増)
(8)カードキャッシング取扱高	:	707 億円	(前年同期比 5.8%増)
(9)カードキャッシング残高	:	2,198 億円	(前期末比 0.5 %増)
(10)営業収益	:	522 億円	(前年同期比 3.4%増)
(11)経常利益	:	115 億円	(前年同期比 18.5%増)
(12)当期純利益	:	78 億円	(前年同期比 42.4%増)